

日本赤十字社などの「はたちの献血」キャンペーン(1月1日~2月29日)が展開されている。県内の若い世代の献血協力の現状などについて、県赤十字血液センター(仙台市)の峯岸正好所長(70)に語ってもらった。

◇ 2022年度の県内の献血者は延べ9万1860人。うち献血が可能となる10代後半の16~19歳は4.7%で全国的にみるとやや低い。高校生に限ると2.

「はたちの献血」キャンペーン

高校側の協力増に期待

2%にとどまる。20代(15.3%)、30代(16.0%)を含めた若い世代の減少傾向が続いている。献血に対するハードルを下げるには、一度でも経験してもらうことが重要。その意味では、多くの高校に献血バスを受け入れてもらうことが必要になる。ただ、新型コロナウイルスス禍の影響で、実施した高

県赤十字血液センター所長
峯岸 正好氏に聞く



校は19年度の27校から22年度に13校に半減。本年度もしていると言えない。公立

若い世代の献血協力を呼びかける峯岸所長

高が少ないことも課題だ。若者に人気のインフルエンサーの献血推進ガール任命や交流サイト(SNS)活用、高校での献血セミナー開催に取り組んでいるが、われわれの努力がまだ足りない部分もある。「人の役に立ちたい」という思いはどなたにもある。献血協力も呼びかけるライブ開催など、若い人が集まるイベントを企画し、若い世代がもっと献血ルームに足を運んでもらえるようにしたい。